花卉

ハモグリバエ対策について

花　卉
竹川　慶剛
上島営農指導センター
080-1729-1637

花き類を食害するハモグリバエは、これまでナスハモグリバエが主でありましたが、マメハモグリバエが急速に分布を拡大し、被害が問題化しつつあります。

両種とも成虫の体長が２㎜ほどの背部が黄色の小さいハエであり、非常に類似していることから肉眼で識別することは難しい。

成虫は腹部末端の産卵管で葉面に穴をあけ、産卵したりにじみ出る汁液を摂食します。

産卵や摂食を行った穴は直径１㎜ほどの白い小班点となって残ります。　卵は約０．２㎜の楕円形で透明なゼリー状で、葉肉内に産卵されるため肉眼で観察することは困難です。

幼虫は無脚のウジで葉にもぐり、口鈎で葉肉をかきとるようにして食害します。

３齢を経過した幼虫は、葉から脱出し葉上や地上で蛹化します。

発育適温は２５～３０℃で、２５℃では両種とも約１７日で１世代を完了します。

両種はナス科、ウリ科、アブラナ科などの多くの植物に寄生し、寄主範囲の大部分は重複しており、カスミ草、トルコギキョウ、キク、ソリダスター、ガーベラなどに寄生が見られます。

耕種的、物理的な防除対策としては、多くの植物に寄生することから栽培ほ場及びその周辺の除草や、施設では換気扇なども含め開口部分に防虫網を張るなどして、成虫の飛び込みを防ぐことが有効です。

薬剤防除は品目や環境によっては、薬害を生じる事があるので注意してください。なお、蛹に対しては防除効果がないので、被害が散見されるようになったら数回続して防除を行ってください。

マメハモグリバエについては、薬剤抵抗性が問題となっており耕種的、物理的対策を積極的に取り入れるようにして下さい。

防除薬剤（他にも多数あり）

農　薬　名	使用倍率	使用回数	備考
アクタラ顆粒水溶剤	2,000 倍	6	
ダントツ水溶剤	2,000 ～ 4,000 倍	4	
アファーム乳剤	2,000 倍	5	
スピノエース顆粒水溶剤	5,000 倍	2	
プレバソンフロアブル	2,000 倍	3	
カスケード乳剤	2,000 ～ 4,000 倍	3	
トリガード液剤	1,000 倍	4	

※農薬については薬害等ありますので最寄りの営農センターまでご連絡して下さい。

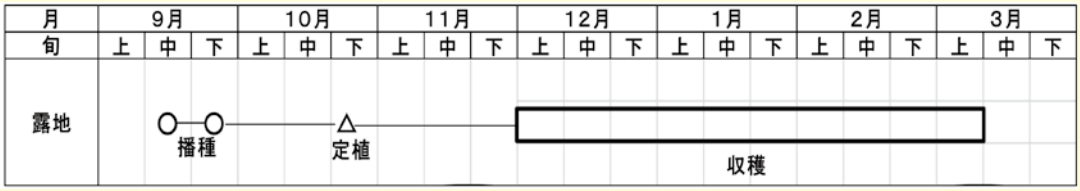
JAあまくさ女性大学「ゆかたの着付け」

JAあまくさ女性大学は7月24日に、第2回目の講義となる「ゆかたの着付け」を天草市の農事研修センターで行いました。中央会営農生活センターの職員2名が講師となり、当日参加した13名の学生は持ち寄った浴衣で前結びや帯結びなどの着付けを講習しました。参加した学生は「何十年ぶりにゆかたを着ましたがとても良かった。」「研修に参加しなければ着るきっかけは無かった。」「分かりやすく教えて頂き、とても楽しい時間になりました。」と感想を話しました。次回は9月25日に三角町の宮田塾にて「食と農の体験塾」を行う予定です。

野菜

茎ブロッコリー栽培耕種基準

野　菜
寺田　到
上島営農指導センター
080-6897-7996



1）品種：スティックセニョール

2）播種・育苗

プラグトレー200穴又は、ペーパーポットＶ４をそれぞれ23冊、28冊準備する。一粒ずつ播種し、種子が隠れるくらいに覆土する。乾燥防止の為、新聞紙で覆う。発芽を確認したら、新聞紙をはぎ、（20～25℃で２日程）徒長を防ぐ。プラグトレーの場合、根鉢をつくるために地上から浮かせる。（10ｃｍ程度でもＯＫ）

3）本圃準備

出来るだけ早めに石灰窒素（80ｋｇ/10ａ）を施用し、耕耘する。（注）石灰窒素は作物に直接触れると障害が起きる場合があるので、最低でも定植の２～３週間前までに行う、分解を促進するため水分を十分保つ。元肥は、土壌水分が適当な時に全面散布し、畦立てマルチを行う。※石灰窒素を使用しない場合は、ＣＤＵ s555、苦土石灰を増量する。

4）定植

畦幅135cm、株間35～40ｃｍ、条間45㎝（3500～4000株/10ａ）の浅植えとし、定植後液肥（500倍）で潅水を行い、活着を促す。

5）収穫

第１回収穫は頂蕾が500円玉だいになった頃程度残し、摘芯収穫をする。第２回目以降は、外葉を落とし腋芽を伸ばし収穫する。

6）追肥

第１回収穫後、窒素成分で10ａ当り２ｋｇ程度を穴肥で施す。以降、２週間おきにＮ成分で２ｋｇ程度を追肥する。

果樹

９月の柑橘園管理

果　樹
白石　一斗
上島営農指導センター
080-1729-1633

中晩柑類では今月まで肥大のピークを向かえます。定期的なかん水の実施と敷きワラ等を行い、急激に乾燥しないよう保水管理に努めて下さい。

１．病害虫防除

高温乾燥が続くと害虫が発生しやすい環境となります。園内を良く観察し、早期防除に努めて下さい。また、収穫基準に合わせて農薬の適正使用をお願いします。

対象品目	対象病害虫	農薬名	希釈倍数	収穫前日数	備考
温州・中晩柑	ハダニ	スターマイトフロアブル	2,000倍	温・中　7日前	発生時
	カメムシ	スタークル顆粒水溶剤	2,000倍	温・中　前日まで	
		Ｍｒ．ジョーカー水和剤	2,000倍	温・中　14日前	多量発生時
	黒点病	エムダイファー水和剤	600倍	温　60日前	収穫前日数に注意
				中　90日前	
河内晩柑・パール柑	さび果	オキシンドー水和剤80	800倍	温　30日前	
	黒点病			中　60日前	
極早生	貯蔵病害	ベフラン液剤	2,000倍	温・中　前日まで	
		ベンレート水和剤	4,000倍	温前日・中7日前	
		ベフトップジンフロアブル	1,500倍	温・中　7日前まで	

※温：温州、中：中晩柑

２．施肥

施肥を実施後降雨がない場合は、かん水を行い肥料を効かせるようにして下さい。

施肥時期	品種名	肥料名	10ａ当たり施用量	備考
９月上旬	甘夏・河内晩柑 清見・パール柑	熊本果樹肥料１０－７－４ 又は　ひのくに果樹９－３－３	３袋	
	デコポン	熊本デコポン８－３－３ 又は　ひのくに果樹９－３－３	３袋	
９月上旬	河内晩柑	硫　安	１袋	樹勢維持（後期落果対策）

３．土壌水分管理

今後の天候により、降雨が無い場合水分管理に注意して下さい。中晩柑類については、今後も肥大促進の為、雨が降らない場合は、定期的にかん水を実施して下さい。

４．仕上げ摘果の実施

日焼け果や病害虫果を中心に仕上げ摘果を行って下さい。早めに摘果を行うことで、肥大も良くなります。また、枝折れ等の発生が無いよう、成らせすぎにご注意ください。